何が変わったのか：IEC 61000-4-5第2版と第3版の比較

Jeff Gray
Chief Technology Officer,
Compliance West USA

はじめに

IEC 61000-4-5 は IEC 61000 シリーズの1つで、スイッチングおよび雷の過渡応答からの過電圧に起因するサージイミュニティ試験について記述している。IEC 61000-4-5 の第2版は、2005年に発行され、その後、長年使われてきた。この第3版は2014年に EN 規格として発行されたもので、第2版から一般的な指針に変わりはない。しかし、表現の曖昧さを明確にする追加説明、第2版になかった新しい定義、規格を使用するときの助けとなる新しい付則（情報）などの改善があった。本稿の目的は、現在の IEC 61000-4-5 第3版に含まれる変更および追加部分を概説することである。

重要な移行期日

第2版から第3版への移行は、以下の期日に従い EU 内で既に運用中である。

2015年3月19日ー発行日（dop）：第3版は CENELEC 加盟国によって全く同じ国家規格で発行される必要がある。

2017年6月19日ー廃止日（dow）：第3版に置き換わる国家規格は廃止されなければならない（すなわち期日以降は第2版を使うことはできない）。

波形変更

単純で、一見したところ実害のない第3版の追加は「持続時間」の定義の追加であり、それには1つの電圧波形持続時間と2つの電流波形持続時間が含まれるので実際には3つの定義である。この波形の時間を計る方法についての変更は、試験を実施する機器に重大な影響を及ぼす可能性もある。この変更は、8x20μS